

No. 1382

災害に備えて

—水防演習—

7月21日、群馬県邑楽郡明和村の利根川流域で、建設省と関東一都六県による水防演習が行われました。演習は「神奈川県三浦三崎に上陸した台風は、毎時25キロの速さで北進し、東京と埼玉を通過して群馬県に来襲……」との想定で、土のう作り、木流し、月の輪越水止めなど日ごろの訓練ぶりが披露されました。続いて群馬県警機動隊と日本赤十字社による人命救助演習中州に取り残された“被災者”が手際よく救出されました。最後はヘリコプターや舟艇を使った自衛隊の演習。救援物資の輸送、架橋、ヘリコプターによる人命救助など本番さながらの演習が展開されました。これからは台風の多く発生する季節、災害にはお互い充分注意したいものです。

にぎやかに開幕

—郡上おどり—

380年の伝統を持つ岐阜県郡上郡八幡町の「郡上おどり」が、7月12日、にぎやかに開幕しました。天候にもめぐまれたこの日、浴衣姿やふだん着の観光客約5000人もおどりの輪に入り、“踊り初め”をしました。このおどりは寛永年間、郡上の藩主、遠藤慶隆が人々の融和をはかるため毎年うら盆に、身分、老若男女の区別なく楽しく踊らせたのが始まりと云われています。この郡上おどり、9月6日の“踊り納め”まで31夜にわたり続けられます。

故大平首相合同葬

故大平正芳首相の内閣・自民党合同葬が7月9日、東京千代田区の日本武道館でしめやかに行われました。葬儀には衆参両院の代表など国内各界はもとより、カーター米大統領や華国鋒中国首相をはじめ50カ国とふたつの国際機関の弔問使節が参列しました。式は小淵葬儀副委員長の開会の辞で始まり午後2時10分、1分間の黙とう。故人が昨年1月の通常国会で行った施政方針演説の一部と同5月の日米首脳会談での英語のステートメントが場内に流されました。故大平首相の業績や人柄をしのび追悼の辞を述べる伊東首相代理と西村自民党副総裁。このあと参列者が次々と献花、在職1年7カ月余り、激動する内外情勢のなか、志半ばで死去した大平首相をしのびました。故大平首相葬儀のあと迎賓館を舞台に、いわゆる弔問外交が活発に行われました。まず伊東首相代理がカーター米大統領と会談。つづいて華国鋒中国首相とも会談し友好協力関係の強化を確認しました。翌10日には国交樹立後初めての米中首脳会談も実現。さまざまな形で会談を繰り広げた各国首脳、故大平首相の葬儀は各国のそれぞれの立場での外交を展開する絶好の場を提供したようです。